

<報道関係各位>

2015年7月31日

一般社団法人 日本化学工業協会

2015年 日化協LRI 研究報告会、8月28日(金)に開催 ～化学物質の安全性評価に係る最新の研究動向について議論～

一般社団法人日本化学工業協会（住所：東京都中央区、会長：小林 喜光（株）三菱ケミカルホールディングス 会長）、以下「日化協」は8月28日(金)、「2015年 日化協LRI 研究報告会」をベルサール神田(東京都千代田区神田美土代町)にて開催いたします。

日化協が取り組む化学物質の人の健康や環境に及ぼす影響に関する研究支援活動：LRI (Long-range Research Initiative: 長期自主研究)は、化学物質管理を巡る近年の国際動向を踏まえ、化学産業が抱える喫緊の課題や社会のニーズに沿ったテーマについて、毎年この時期に定例の研究報告会を開催しています。

現在採択中のLRI研究18課題(別添<参考資料>ご参照)の進捗状況と成果について紹介する「ポスターセッション」に加え、「午前の部」では特別講演および本年新設した日化協LRI賞[※]の受賞記念講演を、「午後の部」では社会の関心が高い特定のテーマについての研究動向を紹介するとともに、業界の取り組みについて広く議論することとしています。(詳細は、次頁の<日化協LRI 研究報告会プログラム>をご参照ください)

※日化協LRI賞とは…

本賞は、“化学物質が人の健康や環境に与える影響に関する評価”について優れた研究業績をあげた若手研究者を表彰する趣旨で、一般社団法人日本毒性学会(理事長:眞鍋淳(第一三共(株) 取締役専務執行役員))の協力の下、日化協が今年から設置した賞。

■午前の部:特別講演および日化協 LRI 賞受賞記念講演

特別講演は、愛媛大学沿岸環境科学研究センターの国末達也教授に新興国を中心に大きな問題になりつつある E-Waste (electronic waste: 電気電子機器廃棄物)の現状について講演していただきます。続いて、日化協LRI賞の受賞記念講演として、国立医薬品食品衛生研究所・安全性生物試験研究センター毒性部の北嶋聡室長より、今回受賞されたテーマである「化学物質の有害性評価の迅速化、定量化、高精度化に関する研究」についてお話しいただきます。

■午後の部:「*in vitro*, *in silico* はどこまで *in vivo* に近付けるか？」をテーマに、シンポジウムおよびパネルディスカッション

化学物質の評価において、従来、実験動物を使った評価が行われてまいりましたが、動物愛護の観点や動物間の種差の問題、あるいは費用の面で「代替試験法」が注目されております。一方で、試験管内で行う評価 (*in vitro*) やコンピューターによる評価 (*in silico*) は、生体内評価 (*in vivo*) との整合性という意味で課題があるのも事実です。そこで、化学物質が生体に与える影響(作用機序=Mode of Action, MOA)や物質のばく露から毒性発現までの過程で生体内で起こっている各反応の連鎖(=Adverse Output Pathway, AOP)をきちんと把握した上で、それに基づいた代替法を構築することにより、これまで懸念されていた整合性を取っていくことが今後非常に重要になってきます。本シンポジウムでは、MOA、AOPという理論を取り入れた代替試験法の可能性について産官学から有識者にご参加いただき徹底的に議論をしていただきます。

なお、本研究報告会への参加は無料です。

日化協セミナー総合サイト <http://www.jcia-seminars.org/>にてお申し込みいただけます(定員:300名)。申込締切は8月26日(水)です。

《本件に関するお問い合わせ先》

一般の方から: 一般社団法人日本化学工業協会 LRI 事務局 水越、黛 TEL:03-3297-2575

報道関係者から: 一般社団法人日本化学工業協会 広報部 鎌田、松本 TEL:03-3297-2555

<2015年 日化協 LRI 研究報告会プログラム>

日時：2015年8月28日(金) 9:30-17:00(開場9:00)

会場：ベルサール神田 2階

(東京都千代田区神田美土代町7 住友不動産神田ビル2F)

プログラム:

| 午前の部 | |
|---|---|
| 9:00 | 開場 |
| 9:30 - 9:45 | 開会挨拶 |
| 9:45 - 10:45 | 特別講演 「E-Waste の化学物質汚染」 国末 達也 (愛媛大学沿岸環境科学研究センター 教授) |
| 10:45 - 11:45 | 日化協LRI賞 受賞記念講演 「化学物質の有害性評価の迅速化、定量化、高精度化に関する研究」 北嶋 聡 (国立医薬品食品衛生研究所・安全性生物試験研究センター毒性部 室長) |
| 11:45 - 13:30 | ポスターセッション ※展示は 16:00 まで 詳細は<参考資料>をご参照ください |
| 午後の部 LRIシンポジウム: テーマ「 <i>in vitro</i> 、 <i>in silico</i> はどこまで <i>in vivo</i> に近付けるか？」 | |
| 13:30 - 14:00 | 「核内受容体の肝毒性発現への寄与と毒性予測への応用」 吉成 浩一 (静岡県立大学薬学部 教授) |
| 14:00 - 14:30 | 「 <i>In vitro</i> 皮膚感作性試験 h-CLAT」 足利 太可雄 (株式会社資生堂リサーチセンター) |
| 14:30 - 15:00 | 「化学物質の反復投与毒性を <i>in silico</i> で評価するツール:HESS」 山田 隆志 (独立行政法人製品評価技術基盤機構化学物質管理センター) |
| 15:00 - 15:20 | 「国立衛研の立場」 小島 肇 (国立医薬品食品衛生研究所・安全性生物試験研究センター 新規試験法評価室長) |
| 15:20 - 15:40 | 「OECD での議論は」 井口 泰泉 (自然科学研究機構基礎生物学研究所・岡崎統合バイオサイエンスセンター 教授) |
| 15:40 - 15:55 | 休憩 |
| 15:55 - 16:55 | パネルディスカッション 座長: 林 真 (公益財団法人食品農医薬品安全性評価センター 名誉理事長) 吉成 浩一 (静岡県立大学薬学部 教授) 足利 太可雄 (株式会社資生堂リサーチセンター) 山田 隆志 (独立行政法人製品評価技術基盤機構化学物質管理センター) 小島 肇 (国立医薬品食品衛生研究所・安全性生物試験研究センター 新規試験法評価室長) 井口 泰泉 (自然科学研究機構基礎生物学研究所・岡崎統合バイオサイエンスセンター 教授) |
| 16:55 - 17:00 | 閉会挨拶 |

<参考資料>

■LRI 第3期 指定課題および採択公募課題(ポスターセッション発表テーマ)

敬称略

| 課題番号 | 研究課題 | 氏名 | 所属 |
|------------|---|--------|----------------------------------|
| 12_S01-01 | 事業者の自主管理に資する確率論を援用したヒト曝露評価モデルの開発 | 東海 明宏 | 大阪大学 大学院工学研究科 |
| 12_S01-02 | ヒト肝キメラマウスを利用した化学物質の精緻な生理的薬物動態モデルの構築 | 山崎 浩史 | 昭和薬科大学 薬物動態学研究室 |
| 12_S01-03 | 化学物質の呼吸器感受性試験法の確立 | 青山 公治 | 鹿児島大学 大学院医歯学総合研究科 |
| 13_S01-01 | iPS 細胞を利用する化学物質のがん幹細胞誘導性評価技術の開発 | 妹尾 昌治 | 岡山大学 大学院自然科学研究科 |
| 13_S02-01 | 工業ナノ粒子の溶解性と生体・生態影響評価に関する研究 | 岩橋 均 | 岐阜大学 応用生物科学部 |
| 13_S03-01 | ショウジョウバエを活用したシックハウス症候群の発症機構の解明と原因物質評価系の開発 | 亀井 加恵子 | 京都工芸繊維大学 分子化学系 |
| 15_S03-01 | 化学物質の呼吸器感受性 <i>in vitro</i> 評価法の開発 | 善本 隆之 | 東京医科大学医学総合研究所 免疫制御研究部門 |
| 12_PT01-02 | 事業者の自主的リスク評価管理を支援する環境リスク評価ツールの開発 | 林 彬勤 | 産業技術総合研究所 安全科学研究部門 |
| 12_PT01-06 | Active QSAR モデリングによるハザード予測の精緻化 | 高橋 由雅 | 豊橋技術科学大学 大学院工学研究科情報知能工学系 |
| 13_PT01-01 | ゼブラフィッシュの神経分化を指標とする化学物質の発達神経毒性評価手法の開発 | 西村 有平 | 三重大学 大学院医学系研究科薬理ゲノミクス |
| 13_PT01-02 | 産業利用促進を目指した新規 <i>in vitro</i> 発生毒性試験の応用研究 | 山影 康次 | 食品薬品安全センター秦野研究所 |
| 13_PT01-03 | 化学物質による複雑な肝毒性を予測及び評価するためのインビトロ・インシリコ統合型システムの開発 | 吉成 浩一 | 静岡県立大学 薬学部 |
| 15_PT01-01 | エストロゲン作動性化学物質に対する新規 <i>in vivo</i> スクリーニング試験系の構築と低用量影響評価 | 中西 剛 | 岐阜薬科大学 衛生学研究室 |
| 15_PT02-01 | ナノマテリアルの遺伝毒性メカニズムに基づいた新規 <i>in vitro</i> 遺伝毒性評価系システムの構築 | 戸塚 ゆ加里 | 国立がん研究センター研究所 発がん・予防研究分野 |
| 12_PT03-01 | セリンプロテアーゼインヒビター欠損細胞を用いた化学物質過敏症の高感度 <i>in vitro</i> 評価系の開発 副題:呼吸器アレルギー検出のための細胞を用いた <i>in vitro</i> 系の検討 | 中村 晃 | 金沢医科大学 医学部免疫学講座 |
| 13_PT03-01 | 加齢による代謝酵素・トランスポーターの機能変動を考慮した数理モデルを用いた化学物質の体内挙動の定量的予測 | 楠原 洋之 | 東京大学 大学院薬学系研究科 |
| 12_PT04-01 | PRTR 登録化学物質の包括的リスク評価手法の提案 | 中田 典秀 | 京都大学大学院工学研究科附属 流域圏総合環境質研究センター |
| 13_PT05-01 | メコン川流域における複合的な環境汚染に対する新規網羅的モニタリングシステムの開発とその実効性の検証 | 平田 収正 | 大阪大学 大学院薬学研究科 |